



本さんと、マスクをつけた重機たち

1992年度から実施されている「優秀施工者国土交通大臣顕彰」（建設マスター）。建設産業の第一線でものづくりに携わり、優秀な技能・技術を持つ建設技能者を国土交通大臣が顕彰しているものです。2015年度からは、今後さらなる活躍が期待される青年技能者を対象にした「青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰」（建設ジュニアマスター）も実施されています。

苫小牧市に本社を置き、一般土木工事のほか道内各地で重機土木工事に携わっている苫重建設(株)。これまで6人が建設機械運転士の分野で建設マスターとして表彰されていますが、2020年度に同社初の建設ジュニアマスターが誕生しました。土工分野での表彰ですが、現場施工管理もできる逸材で、道内各地の現場で職長として活躍している本龍也さんに会ってきました。

何気なく選んだ土木の道

札幌市出身の本さんは高校を卒業後、北海道工業大

学（現北海道科学大学）工学部土木工学科に入学しました。「苦手な機械や情報、電子などの学科を避けて、何となく土木工学科を選びました。深い考えはなかったですね」と笑う本さん。就職先も大学の採用情報にあった苫小牧市と室蘭市、岩内町の建設会社の中から苫重建設に入社を決めました。「何となくフィーリングでした。苫小牧だと実家がある札幌にも近い」と、気軽な気持ちだったようです。

1961年に創業した苫重建設は、初代社長の櫻田清氏の熱い思いで68年の移転とともに社宅と独身寮を併設した社屋を建設し、従業員とは家族同様に接してきた歴史があります。今も社屋のそばには独身寮があり、若手社員らが暮らしています。

そんなアットホームな社風が残る会社に入社した本さんも、「会社の人たちがみんないい人で、働きやすい会社」と実感しています。そして、今では中堅社員の中で大きな期待を寄せられている存在です。



思い出深い、初めての難工事と職長

北海道や苫小牧市などの公共工事に加え、苫小牧港管理組合や(株)苫東など地元の取引先が多い苫重建設。大手ゼネコンからの信頼も厚く、本さんは入社後、多くのビッグプロジェクトにかかわり、道内各地の建設現場で従事してきました。

中でも思い出深いのは、20代半ばでかかわった道東自動車道の釧路市内に建設する2つのトンネル工事で「1つ目のトンネルの前に大きな沢が2つあり、初めてかかわった難工事でした」と言います。

本さんが担当したのは、土を掘ったり、運んだり、盛り固めるなど、トンネルと道路の地盤をつくる仕事。「トンネル前の大きな沢は一つ目が20m、二つ目が30mもの落差がありました。われわれの仕事は、下から順に進めていかなければいけないので、事前に重機が通るための道路を造ったり、沢の水を処理する管を入れるなど、時間と手間のかかる現場でした」。

加えて、この現場で初めて職長を任されることに。「作業をしてくれる人たちは、みんな大先輩ばかり。まだ若かったので、自分の仕事のやり方も確立できていない時期でした。いつもこれでいいのかと自問自答しながら仕事をしていました。でも、苦勞した仕事は、ものづくりという面では楽しい現場でもあります」と4年近くかかわった工事を思い出します。

東日本大震災後には、復興支援で岩手県陸前高田市にも出向きました。高台の土をもとの市街地に盛土して新たに市街地を造る工事があり、「高台を一つ切り開いて住宅地を造る工事を担当しました」と言います。

徐々に現場の景色が変わる面白さ

苫重建設で初の建設ジュニアマスターとして表彰された本さん。大きな現場になると40人ほどのスタッフを抱えることもあります。

「彼は職長として、どうしたらみんなが気持ちよく働けるかということをよくわかっています。安全第一ですから、緊張感を持たなければならない場面ではしっかり引き締める。そのメリハリがあります。うまく人間関係を築きまとめていて、さすが職長と評価してい

ます」と、櫻田泰己^{ひろき}常務は太鼓判を押します。

苫重建設は、2018年に苫小牧市の第1回ワークライフ balan

s企業表彰で「働きやすい職場環境づくり賞」を受賞しています。「見える化」を通じた「言える化」の実現、建設現場での女性技術者の育児休暇の取得、復帰後の短時間勤務や定時退社の促進、社員寮の完備など、社員の健康を守りながら、働きやすい職場環境づくりを進めていることが評価されました。同年には、健康事業所宣言を行い、翌年に健康経営優良法人*に認定されています。また、「とまこまい港まつり」では25年以上も重機試乗体験ブース「港づくり体験広場」を開催するなど、地域貢献にも尽力してきました。

新型コロナウイルス感染症の発生を受けて、2020年春には櫻田泰清社長の発案で、自社が保有するブルドーザやキャリアダンプに防災シートやブルーシートを使ったマスクを装着。国道36号沿いに本社があるため、ドライバーへの啓発と子どもたちへのウイルス対策などの思いを込めた、ユニークな取り組みになっています。健康経営とともに、柔軟な発想と対応が「人財」づくりにつながっているようです。

そんな会社でプロパーとしても期待を寄せられる本さん。この仕事の魅力を「現場の景色が徐々に変わっていくこと」と言います。「現場を進めていくと景色が変わっていき、成果が目で見取れます。雨の日や雪の日もあり、季節や天気で現場が見せる表情は変わります。そんな状況に合わせて、考えて仕事を進めています。1週間ごとに定点撮影した現場写真をスライドショーで映し出すと、変化が如実にわかりますよ」と、現場ならではの景色の変化を思い浮かべさせてくれました。

建設ジュニアマスターを受賞して「経験を積んで建設マスターも受賞できるように頑張りたい。そのためにも現場が無事故であること」と気を引き締めます。

* 健康経営優良法人

経済産業省の健康経営優良法人認定制度により顕彰される優良な健康経営を実践している法人。従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人などが認定される。